

図12 公立学校施設状況の推移（小学校屋内運動場）

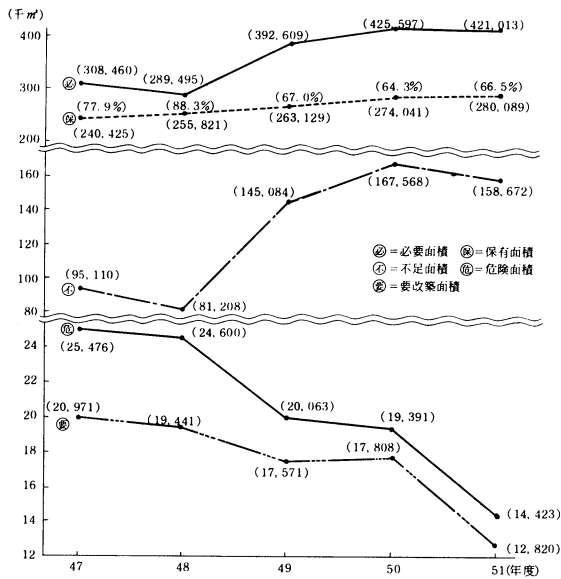


図11 公立学校の学級数・児童生徒数の推移（中学校）

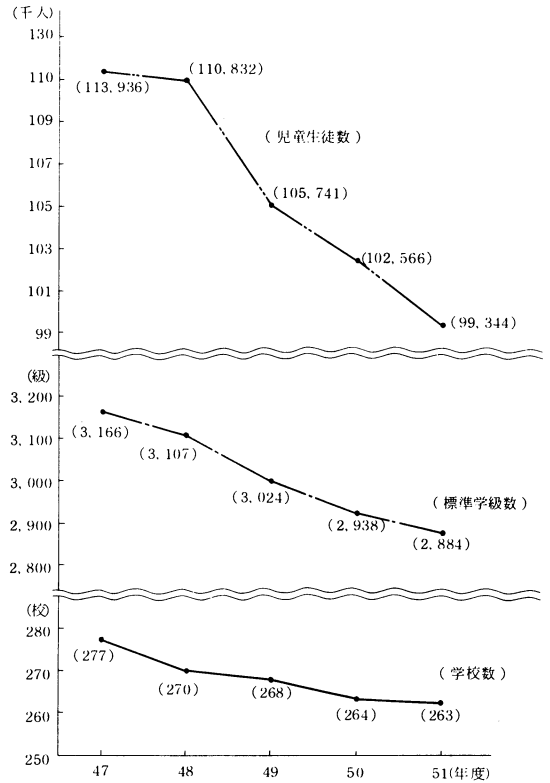
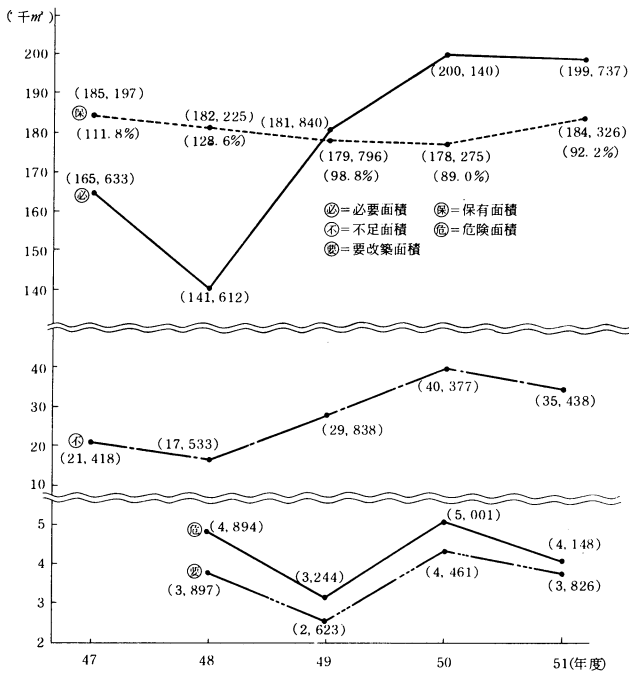


図13 公立学校施設状況の推移（中学校屋内運動場）



し、鉄骨造はほぼ一定の保有率で推移している。これは全国平均もほぼ同様の状態で推移する。

小学校、中学校ともに昭和五十一年五月一日現在、木造保有率が五一・五二%と保有率の半数以上を占めて、これは昭和四十七年度の全国平均の木造保有率四九%を上回っている。

本県の屋内運動場の構造別保有状況は、小学校にあつては図16のとおり、鉄筋造は昭和四十七年度から昭和五十一年度まで保有率は一〇%と一定の率で推移し、鉄骨造と木造にあつては昭和四十七年度はほぼ同率であつたが、昭和五十一年度には木造が全体の三二%と

減少し鉄骨造が五九%と最も高くなつている。

全国平均の構造別保有率は鉄筋、鉄骨が高く、木造が低くなる。全国平均と比較すると、本県の鉄筋造は全国平均より低く、鉄骨造は高く、木造は全国平均と大きな差はなく通減しながら推移している。

中学校屋内運動場の構造別保有状況をみると図17のとおり、構造別保有率は鉄筋造は昭和四十七年度に一一%が昭和五十一年度で一二%と、ほぼ一定の低い率で推移し、鉄骨が漸増し、木造は通減している。